



稲作情報



JA秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23-6556

各営農センター

金沢 ☎ 37-2124 大雄 ☎ 52-3665

平鹿 ☎ 24-3110 十文字 ☎ 44-3101

秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32-4150

農産課(農作・畑作・損防) ☎ 32-4404

建物農機具課(建物・農機具) ☎ 32-4119

秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32-1805

横手市農林部 農業振興課 ☎ 32-2112・32-2113

横手 ☎ 32-8220 増田 ☎ 45-2035

大森 ☎ 26-4155 雄物川 ☎ 22-2266

家畜果樹園芸課(家畜・果樹・園芸) ☎ 32-4407

収入保険課(収入保険) ☎ 32-4229



2年連続の茎数不足 栽培密度70株植えて茎数確保を!! ＝ 保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保 ＝

いよいよ本田作業に入ります。ゆとりを持って計画的な田植え作業と保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保に努めましょう。

ふるさと稲作ほっとLINE QRコード
友だち登録をお願いします!



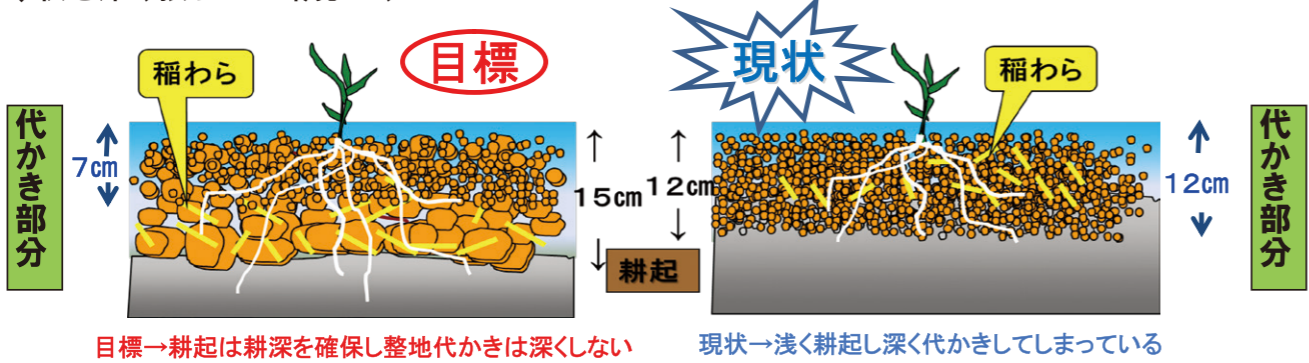
1. 代かき作業

代かき作業は、田植えの前に耕起した水田に水を入れて行う碎土均平作業です。できるだけ浅水状態にして作業を行い、田面に高低差が生じないように行いましょう。

*水量が多すぎる場合、圃場の均平がわかりにくいため作業がうまくいきません。また、わら・稲株等のすき込みが難しくなります。

*鏡のような過度の代かきは作土全体が泥状になり、土壌還元促進や表層剥離の原因となります。作土の下部は軽く土塊が残るくらいに仕上げましょう。

◆根を深く張らせる環境づくり



【産地の環境負荷低減対策】

マイクロプラスチック流出防止対策実施のお願い

稲作の省力化を目的に基肥重点型肥料(一発肥料)が普及している一方で、使用後の肥料の被膜殻(マイクロプラスチック)が圃場から海洋等に流出することによる環境への影響が懸念されています。

環境負荷低減を目的としたマイクロプラスチック流出対策を産地全体で実施して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

*実施方法: 水稻作付圃場の排水側に、網等の設置をお願いします。

*実施時期: 田植え前や中干し前、刈り取り前等、大量に排水する作業前の実施をお願いします。

*設置に関する相談等は、JA各地区営農センターまでお願い致します。

2. 田植え・栽植密度

安定した収量・品質を得るには、目標茎数を早期に確保することが大切です。

近年管内の栽植密度は、全体的に「疎植」の傾向にあります。「あきたこまち」は穂数型の品種です。「疎植」にしてしまうと、穂数を確保できず収量低下の要因となります。安定した収量を確保するためには70株/坪の栽植密度が理想です。高地力田や側条施肥等で初期生育を確保しやすい圃場は、50~60株/坪でも対応できますが、しふくみのり等の晩性品種は50株では登熟が遅れるため、しっかり実らせるために60~70株をお奨めします。

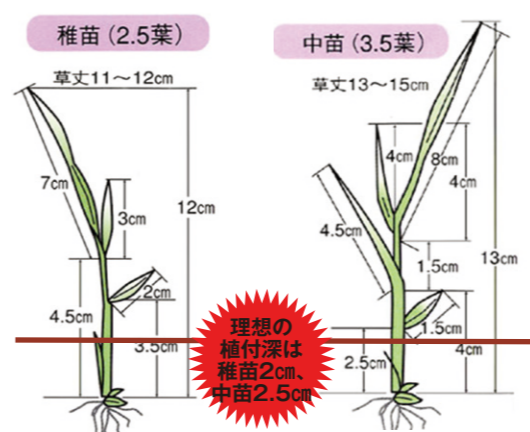
*低温・強風の日に田植えを行うと植え傷みを起こし、活着や初期生育の遅れにつながります。

*田植えは最高気温20℃前後の温暖な日に行ない、15℃以下の肌寒い日や強風の日は避けて、天気回復を待ちましょう。

*田植え後の圃場を見ると、株当たり植え込み本数が多い傾向が見られます。植え込み本数が多いと初期分げつが抑制されますので、植え込み本数中苗で平均3~4本/株、稚苗で平均4~5本/株となるよう調整しましょう。

(田植え作業スタート時に実際に植え込まれた本数を確認しましょう。)

*植え付け深さは、活着・分げつに影響します。極端な浅植は浮き苗や除草剤の薬害が起きやすく、また深植は分げつを抑制しますので、植え付け深さは稚苗で2cm、中苗で2.5cmとしましょう。(3cm以上の深植えにならないように!)



植込株数/坪 株/m ² 株間 (cm)	50株/坪 15.2株/m ² 21cm	60株/坪 18.2株/m ² 18cm	70株/坪 21.2株/m ² 15cm
①目標穂数: 380~440本/m ² 必要1株穂数	25~30本/株	21~25本/株	18~21本/株
②目標総穂数: 28~31千粒/m ² 穂数確保の難易度	難 穂数不足	←	→ 易 穂数確保
③株数を多くすると大粒傾向 千粒重確保の難易度	やや難 1穂数多すぎ	←	→ 易 適正穂数確保
④基肥窒素量 (kg/10a) 穂数確保の難易度	基肥N-5	難 穂数不足	→ 易 穂数確保
	基肥N-7	易	→ 易 倒伏注意

栽植密度 70 株/坪が穂数・穂数確保が楽で、大粒傾向にしやすい

(図: 食味ランクアップマニュアルより引用)

3. 田植え後本田水管理

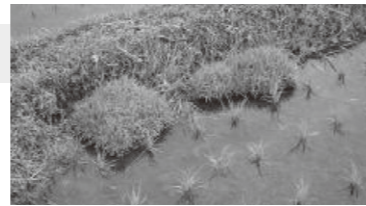
苗の生育状態や気象条件を考慮し、最適な水管理を行いましょう。

*活着するまで水深4~5cm程度の水深(苗が水没しない程度の湛水)を保ち(保温的水管理)、発根・活着を促進します。

*活着を確認したら分げつを促進するため、2~3cm程度の浅水管理として水温と地温を高め、日気温較差を大きくします。このため、できるだけかん水は水温の低い早朝に行いましょう。また、水の冷たいところでは、温水チューブを利用して水温の上昇に努めましょう。

4. 苗いもち対策

水田に放置された補植苗は葉いもちの伝染源となります。いもち病は予防が鉄則ですので、補植は田植え後早めに行い、畦畔・本田等へ放置せず直ちに埋没処分しましょう。「葉いもちの発生源」



◆ カメムシ対策 ◆

雑草地は、カメムシ類の生息地と繁殖地になります。管内の主要となっているアカスジカスミカメは卵で越冬し、6月上旬頃からふ化し始めることから、ふ化前に草刈りを実施することで発生密度を低下させることが可能です。畦畔・農道や転作圃場では、5月頃から計画的に草刈りや耕耘・除草剤散布等の雑草対策を徹底し、カメムシの密度抑制に努めましょう!!非選択性除草剤散布の際は、水稻や周辺作物に飛散しないよう注意してください。

5. いもち病・初期害虫防除薬剤

近年、1箱当たりの薬剤の量を減らして「いもち病」が発生するケースが多くなっています。安定した効果・持続が得られるよう登録の散布量と使用方法を確認し、均一散布に努めましょう。※高密度播種の場合の使用量については、JA専任指導へご相談ください。

薬剤名	主要対象病害虫名	散布量	使用時期	使用回数	成分数
デジタルミネクト箱粒剤	葉いもち～穂いもち イネミズゾウムシ・ イネドロオイムシ・ イネアオムシ・イナゴ類	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	2
ルーチンパンチ箱粒剤 (特別栽培米使用可)	いもち病・イネミズゾウムシ イネドロオイムシ・ イネアオムシ・イナゴ類	50g/箱	播種時(覆土前)～移植当日	1回	2
Dr. オリゼパディート粒剤		50g/箱	緑化期～移植当日	1回	2
デジタルメガフレア箱粒剤	葉いもち～穂いもち イネミズゾウムシ・ イネドロオイムシ・カメムシ類	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	2
ルーチンブライト箱粒剤	いもち病・イネミズゾウムシ イネドロオイムシ・イネア オムシ・イナゴ類・紋枯病	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	3

6. 雑草防除

初・中期一発除草剤の効果が高めるためには、圃場の水持ちはもちろん散布時期や散布後の水管理も重要となります。

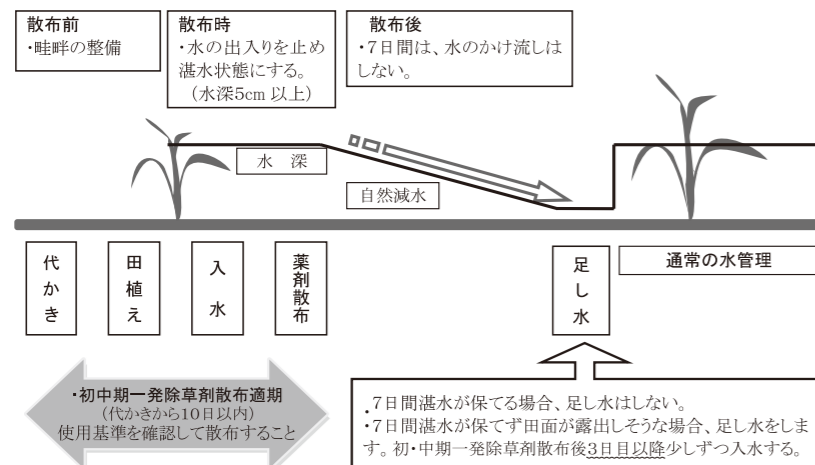
田植えが1週間以上かかる場合は、田植えが終了した圃場の初・中期一発除草剤散布を進めながら代かき、田植え作業を実施しましょう。

* 粒剤は均一散布を心がけ、散布ムラや重複散布がないようにしましょう。

* カナ・表層剥離・藻類の発生は除草剤の拡散を妨げますので、発生前に散布しましょう。

◆ 主な水稻初期及び初・中期一発除草剤(「ふるさとecoらいす」は、初期剤は田植前に使用できません。)

★ 除草剤散布と水管理のポイント ★



初・中期一発除草剤の散布に当たっては、水深5cm以上の湛水状態で散布し、除草剤の処理層が形成される3日間は田面を露出させないことが基本です。除草剤の残効を長く保つためには、水を切らさず湛水管理を継続することが重要です。田面の露出した場所は除草剤の処理層が壊れ、雑草のリスクが高まります。

区分	除草剤名	散布量・薬量(10a)	使用時期	ノビエ効果	使用ポイント	直播登録	成分数		
初期剤	ソルネット粒剤	1kg	移植時～	1.0葉	初中期一発剤と体系処理※田植え前の使用はecoらいす対象外(移植同時処理又は移植直後散布は可。)		1		
	エリジャンジャンボ・乳剤	300g/300ml	移植直後～	1.0葉			1		
	※前作と品種が異なる場合は必ず使用(漏生苗対策)								
初・中・期一発	メテオ粒剤	1kg	移植時～	1.0葉		○	1		
	ピラクロン粒剤	1kg	移植時～	1.5葉		○	1		
	豆つぶ	プライオリティ豆つぶ250	250g	移植直後～	3.5葉		○	2	
		アカツキ豆つぶ250	250g	移植後3日～	3.0葉		○	3	
	粒剤	ゼータプラス粒剤	1kg	移植時～	3.5葉		○	2	
		ガツントZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	2	
		プライオリティ粒剤	1kg	移植時～	3.5葉		○	2	
		カイリキZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		シグナス粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		ゼータタイガー粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		アッパレZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		カウントダウン粒剤	1kg	移植時～	3.5葉	特別栽培米使用可	○	3	
		ジャンボ	ゼータプラスジャンボ	200g	移植後3日～	3.5葉		○	2
			ガツントZジャンボ	250g	移植後3日～	3.0葉		○	2
	プライオリティジャンボ		250g	移植直後～	3.5葉		○	2	
	カイリキZジャンボ		300g	移植後3日～	3.0葉		○	3	
	ゼータタイガージャンボ		300g	移植後3日～	3.0葉		○	3	
	アッパレZジャンボ		400g	移植後3日～	3.0葉		○	3	
発剤	カウントダウンジャンボ	400g	移植直後～	3.5葉	特別栽培米使用可	○	3		
	フロアブル	キマリテフロアブル	500ml	移植直後～	3.0葉		○	2	
		ガツントZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	2	
		プライオリティフロアブル	500ml	移植直後～	3.5葉		○	2	
		カイリキZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3	
		アッパレZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3	
		ゼータタイガーフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3	
		カウントダウンフロアブル	500ml	移植時～	3.5葉	特別栽培米使用可	○	3	

令和6年産米「ふるさとecoらいす」取り組み表示札設置の廃止について

平成28年産米より「ふるさとecoらいす」の農家啓発運動として実施してまいりました「取り組み表示札の設置」につきまして、ecoらいすの取り組みがほぼ100%になったことにより、令和6年産米より表示札の設置を廃止いたします。

表示札の設置廃止に伴い、生産者の皆様には防除・栽培管理日誌に新たに署名・捺印いただく欄を設けた「防除・栽培管理日誌兼証明書(誓約書)」を提出していただくこととなりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※特別栽培米につきましては、特別栽培農産物(米)の生産に係る国のガイドラインに従い、引き続き圃場への表示札を設置していただきますのでご理解とご協力をお願いいたします。(専任指導による圃場の現地確認を実施いたします。)

本田における農薬使用機会が増えますので周辺作物への飛散(ドリフト)に注意してください。農薬使用にあたっては、安全かつ適正に使用しましょう。